



歌討東錦繪

六五

~ 13
4055
3



門へ13
4055
3



三十

侃討天貞東洋繪實記卷之八



目錄



一 倉光小次郎山政へ招路の事

天正十年八月廿九日
本大學出版部
贈

仇討天貞東洋繪実記卷之八

とうらうこ 倉光小次郎 やまがき 山形へ まゐり 陽路の事

さても象^{きさく}深^くの舟^{ふね}場^ばよあおて口^{くち}福^{ふく}の
うへ手^てあひのりのうれりりしゆび
死^ししゆすずりもあ^れ人^{ひと}をむと
ま^ま山^{やま}中^{なか}へあ^あ手^てとま^まあ^あひ^ひうけ
ま^ま人^{ひと}の手^てあ^あひ^ひのり^りしゆむ

ておひ一人のむねがらん昔生とくま
送りささげ中巻一と云物現山か
びまもちのせ握ちつふ後人吉人
野怪十人むりり一白世ももち
後人ささき秋田辰作の市村
谷まいしとせでれりささけお音
辰事相はさきりろ志うろよ念老小
次帝一角力とりと手にかけ山牛
よ遊入しうば岩角少ざくらを
あぐれだざらんさんよ亦余下と
ぶがごとくせんせとらりぞてこもどりめ
のふどふ蝶貝人ささきもきまら
かもろりの山中はべりりりりりり
とや貝の音人ささきもきまらざれば
ちかきとく山牛ささきもきまら
うけ身はささき辰ささきもきまら

ておひ一人のむねがらん昔生とくま
送りささげ中巻一と云物現山か
びまもちのせ握ちつふ後人吉人
野怪十人むりり一白世ももち
後人ささき秋田辰作の市村
谷まいしとせでれりささけお音
辰事相はさきりろ志うろよ念老小
次帝一角力とりと手にかけ山牛

るがさうし古々のかこもちあん
とひドと抱と一睦のゆりむ
はびハ不飲ありらりりりり
ありーらふやふひのそららのちど
もあくはら後よくのりりりり
ーりりりりりりりりりりりり
らよ身よとられればあともたさる
ーりりりりりりりりりりりり

の洞ととりあ傳ふさるの風情
るこよあゆひちがくくあがり居る
かかしてゆくま事あふねを小
ぎのうちとるちソで人の行通
よさやゆるとるあづねと一ふ花
ら山申あーてソぐくよあてど
ソよここのゆらざれは東西をうら
ひらるふ何とやうん人の通

はらゆへに小次席へきり多くよるこび
ましましきへちりて十餘所もなほ
こびれは人あはに新たてはきき
る多れは小次席よりよるこびとまづ
あまよふ体そくせんと酒賣る女
ゆりりれはあんないして肉へり
席へあまよふちりあはをきく
はらまことやまをんはるがさいこひあは

あどそののへちりは海辺で居る
るあまちりきあそりの百姓とん
へてこころま田かには人はまこまき
まらるが茶もふひるやうハサそ
く兵助ハ大まあるりよあひま
しるるよくアヤうトトさへあし
らば死ハせぬトさへあれども
一生のいざりよてまへらかひも

あ〜^きのぞ〜せんぞん^き兄弟^{ちち}の^{ちち}辰^{ちち}介^{ちち}
是^{これ}よ^ははら^ぎい^らら^らこ^らゆ^らま^まド^ドそれ
と^しよ^も平^ひ生^{せい}か^かれ^れか^かわ^わふ^ふま^まう^うせ^せ人^{にん}
を^と人^{にん}も^もあ^あの^の已^いぬ^ぬ思^しの^のこ^こと^とあり
し^しよ^よ相^あ合^あひ^ひこ^こら^らと^とふ^ふが^が〜[〜]こ^こり^りと^とし
あ^あか^かと^とよ^より^りい^いせ^せん^んぎ^ぎち^ちさ^され^れゆ^ゆを^をら^らづ
と^とこ^こら^ら〜[〜]ら^らふ^ふま^ま人^{にん}い^いひ^ひら^らが^がさ
ま^まば^ばと^とよ^よこ^これ^れも^も夜^やぜ^ぜん^んそ^そ〜[〜]

ん^ん中^{ちゆう}ふ^ふ中^{ちゆう}〜[〜]れ^れど^どま^まあ^あ〜[〜]ま^まに^に
う^うら^らべ^べは^はま^まの^の権^{けん}ち^ちあ^あつ^つハ^ハい^いて^てお^おと
〜[〜]と^とて^て空^{くう}院^{いん}の^のせ^せつ^つハ^ハ目^めと^とま^まに^にし
相^あ合^あひ^ひが^が海^{かい}〜[〜]ま^まで^で一^{いっ}向^{きやう}と^とら^らぶ^ぶよ^よの^の元^{げん}
か^かあ^あの^のま^まを^をせ^せて^てま^まり^り〜[〜]あ^あま^ま〜[〜]り
〜[〜]り^りと^との^のこ^こら^らと^とさ^さい^い沙^さ入^{にゅう}あ^あ〜[〜]り^りの^の
〜[〜]あ^あら^らめ^めな^なり^り〜[〜]た^たま^ま〜[〜]なる^るさ^さい
あ^あん^ん何^{なに}〜[〜]と^とら^ら〜[〜]の^の侍^{しやく}ハ^ハ滝^{たき}を^をん

このころの家内うちうちのころころとて
ゆきとれれば山次第やまついでハ是これときころむ
さんさんのころころハ日ひがふふかき一一の
ごもありけああよ長なが右みぎ一一てハあ一
うりあんとてふ一ゆもむひんあめ
ころころハ何なにころあやとあふげ白しろふ
くまぐねられバ陽やう屋やのてい一のり
ころハあのとてあ一ち一ハ大山あまやまをぬ

禮らいごころ一梶かぢ古ふるあつとてあ人の角かくカ
そりあつて先せん年ねん京きやう都とへおでそれ
より江戸えどへ下くだり勤きん進しん角かくカとりし
りのあふがふんふんごころ一こまけもるく
江戸えどの源げん氏し出でごのとあふいふ
きふふふあとあちらまき各おののり張は
竹たけての海うみふ一ころよ一け秋あき田た順じゆん
ころの角かくカあふふふと各おの浮うきふふふ

うらざるこころその自ぜん車ハ散
の家^{うち}中のものゝあま^{せん}仙^{せん}居^いノ用^{もち}車^{くるま}の
りてま^まづり^りありけ^けち^ちら^らと^とド
へ^へあ^あて^て山^{やま}取^とり^り道^{みち}ニ^に五^ご里^りと^とち^ちら^らま^ま
し^し仙^{せん}居^いま^まし^した^たし^しら^られ^れる^るふ^ふ山^{やま}取^と
一のち^ちら^らま^まち^ちハ^ハン^ング^グと^とあ^あま^まや^やま^まし^し
く^くあ^あし^しに^にあ^あま^まれ^れと^とま^まも^もあ^あげ^げ小
多^たぐ^ぐの^のれ^れが^がて^てい^いも^もい^いや^やう^うい^いま^ま

ち^ちら^らま^まち^ちり^りの^のち^ちら^らま^まの^の山^{やま}の^の根^ねり
片^{かた}そ^そた^たり^りノ^ノ二^には^は里^りも^もら^らま^まら^らり^りゆ^ゆ
む^むき^きと^とま^まし^しし^し出^でゆ^ゆく^くそ^それ^れら^らり^り山^{やま}取^と
ハ^ハ知^ちま^まし^しや^やま^まし^し旅^{たび}人^{びと}も^もあ^あま^まし^し家^か居^い
し^しり^りあ^あし^しり^り出^でま^まし^しや^や出^でゆ^ゆく^く山^{やま}取^と
ハ^ハこ^こづ^づう^う十^{じゅう}里^りむ^むら^らり^りま^まら^らん^んと^とま^ま
し^しら^らま^ま少^{せう}次^じ師^しぎ^ぎよ^よら^らま^まし^しか
あ^あし^しら^らま^まし^して^てま^まの^の山^{やま}の^の根^ねの^の道^{みち}ハ

家が^い右^がも^もい^いも^もり^りり^りや^やと^とい^いり^りり^り
ソ^ソや^やと^とよ^よ山^{やま}の^のや^やの^のと^とよ^よて^てと^と地^ち里^りが^があ^ある^る
と^と農^{のう}人^{じん}獵^{りょう}師^しの^のも^もち^ちを^をり^りと^とあり^り
と^と三^{さん}五^ごく^くら^らふ^ふ少^{せう}は^は命^{めい}し^しと^とい^いら^らせ^せう^うハ
あ^あら^らぬ^ぬ山^{やま}が^がよ^よて^て同^{どう}よ^よと^とい^いて^てい^いふ^ふ家^けも^もあ^ある^る
ま^まは^はい^いと^とい^いて^てと^とは^はば^ばと^とい^いて^てい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ
が^があ^ある^るよ^よ人^{ひと}家^がの^のあ^あら^らわ^わい^いと^とい^いて^てい^いふ^ふ
ら^らあ^ある^るこ^これ^れと^とた^たの^のこ^こら^らよ^よて^てい^いふ^ふ
か^から^らい^いと^とい^いて^てい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ
こ^こら^らい^いと^とい^いて^てい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ
ハ^ハ又^{また}上^{かみ}里^りも^もと^とい^いて^てい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ
よ^よら^らう^う山^{やま}を^を右^{みぎ}よ^よと^とい^いて^てい^いふ^ふ
と^とい^いて^てい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ
ら^らあ^ある^ると^とい^いて^てい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ
と^とい^いて^てい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ
く^くと^とい^いて^てい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ
く^くと^とい^いて^てい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ

どよほむむとされば山崎めいふこまよ
らんとのこあひてこそ後とくらなり
何のこころがわくさるの岩くどよとじ
うちわけたうちさりいざしなを
このこころがわくさる東西とる人なれ
るよえらうの海山のこころより大塔
の人多しとて貝吹まを散らさ
つて何とやらものけしきいざしな

てはありなれば少次帝はまよなれど
海きかくくのたまのねののこらふ
なちよりてうらむひ居たるの
こまこととさかきかきんしれだ
りしをさうの事よそとさうらま
生涯の死をさうさんよりうで
くぎよりみ切ぬけりそまことて
けさぞとらん朝あしはば人よ

ハカ^ハくら^クま^マど^ドま^マし^シて^テ無^ム事^ジ無^ム法^フの
百^{ヒャク}姓^{セイ}を^を何^ニ百^{ヒャク}人^ニ集^ツり^テい^ハり^テも
あ^ハら^ハど^ノの^ノこ^ト何^レん^ト身^ミが^シ身^ミ
し^シて^テぞ^ゾう^ウう^ウひ^ヒ々^々あ^ハら^ハど^ノも^モ何^レん^トせ^セ
け^ケ風^{フウ}は^ハら^ハら^ラぬ^ドく^クあ^ハら^ハら^ラこ^コり
山^{サン}谷^コつ^ツど^ドよ^ヨ鳴^ネ動^{ドウ}し^シ石^{イシ}瓦^カを^をど^ド
は^ハら^ハら^ラと^トは^ハら^ハら^ラ山^{サン}中^{チュウ}に^ニあ^ハら^ハら^ラぬ^ドく^ク
ぜん^{ゼン}ど^ドと^トい^ハら^ハら^ラま^マく^クで^デら^ラら^ラど^ドを^を
前^{ゼン}後^ゴを^を名^ナよ^ヨこ^コし^シま^マく^クで^デら^ラら^ラど^ドを^を

ムれ^ムバ^バ七^{シチ}次^ジ師^シも^モた^タど^ドら^ラき^キい^イ山^{サン}色^{シキ}何^ニど^ド
ら^ラら^ラや^ヤと^ト大^{ダイ}本^{ポン}の^ノり^リも^モも^モを^をま^マり^リ
て^テう^ウう^ウひ^ヒ居^イら^ラら^ラふ^フ小^コ山^{サン}の^ノこ^コも^モ精^{セイ}の^ノ
何^ニも^モよ^ヨり^リま^マを^をあ^ハひ^ヒて^テ一^{イチ}文^{モン}字^ジあ^ハか
け^ケ来^キら^ラ何^ニり^リと^トい^ハら^ハら^ラら^ラを^をい^ハら^ハら^ラら^ラ
皆^{ミナ}本^{ポン}の^ノ根^ネと^トう^ウぐ^グち^チ何^ニも^モい^ハら^ハら^ラら^ラ
何^ニり^リと^トい^ハら^ハら^ラら^ラを^をい^ハら^ハら^ラら^ラら^ラ
な^ナら^ラら^ラら^ラら^ラ何^ニと^トあ^ハひ^ヒくら^{クラ}大^{ダイ}塔^{トウ}の^ノ

百姓あやむぢをば穢人かりかぢの身みをいふうちまどを
大敵たいてきとなすこころはうちあるが
決けつ炮ぱうよ火ひあることりけはくさすこころ
へてうちさうんと穢あやむよはらるるけ
まらていゆ次第しだいハこれをうらて
さすもあやむらざる大世あやむなる
後のちくるかまふかけちまはらと
身みをうらといとあまて本の根ねとあや
うけまはあつハ山次やまじとつんるより
と一ひととあやむかけまはらかけなを
さうんとせしやうりさう山次やまじ
ハあやむらととたた名なよめぐりえん
づをぬつ身みとらげよあやむ
條じょうのくさよあやむらぎあやむ
ららりりさあやむ穢人かりかぢと
り百姓あやむぢをばすらのてはとつんるより

さうもやうき旅人うまいうら
てゆけん^{とす}とをゆをくぶく斗^{たうり}を
り獵人^{かりやうど}もころがう成もちるまぶ
りやちやまるそ山流帝^{やまなが}あぢふ
らんうとさうくりよよのゆりさる
よてせんうさなくく^{あぢら}山流帝
か^とく^とさう^とま^とは^と付^とむ^とり^とハ^とゆ^とそ
ひーがそそーハ^とゆ^とと^とま^と一^と文^と

字^じよ^よび^びくら^{くら}ち^ちを^を飛^ひ鳥^との^のど^どく^くたり^{たり}
へ^へら^らー^ー新^{しん}は^はま^まい^いる^る猪^しの^の尾^びづ^づ
と^とあ^あら^らう^うと^とさ^さら^らへ^へあ^あづ^づく^くと^とひ^ひま^まい^いの^のど^ど
せ^せば^ばあ^あら^らハ^ハ大^{だい}ま^まま^まい^いら^らう^うと^とあ^あー^ー
ち^ちの^のう^うさ^さん^んと^とせ^せー^ーお^おり^りう^うら^ら山^{さん}流^{りゅう}帝^{てい}
た^たら^らさ^さげ^げ片^ぺも^もと^とも^もら^らて^てゆ^ゆと^とあ^あし^し
と^とら^らく^くあ^あま^まい^いひ^ひら^らん^んさ^させ^せー^ーと^とあ^あま^まよ^よ
た^たら^らう^うりの^の大^{だい}猪^しを^をれ^れが^がら^らう^うさ^さん

よそを後らりぐりちうよまびとへ小次帝
かやの母のうゝをもちかへし
あはるるこゝと小次帝ハツるば
毎のいゝぬきいゝるゝ一猪の元
そふとほまきこゝせがさすはてがの猪
もけのやよこりけんが
こゝよまきをうらひ三分
ほまきこゝせがさすはてがの猪
かごゝ猪ハかゝゝよなをれければ
小次帝大いまほまき金身血よ
ほまきまきれがたかぬぬぐひま
あうらふ大猪のいゝも始終は
してあまらうがのそゝまきと大
いよあんと申すはちちちち
人あま小次帝かまよまきあ
はまらふとあうらうらうら

うまこまじしとてしんしんるものたは
りてゆけがなむしゆんるものたは
とのんてそ物しゆはたむりあり
ゆ浪のさかりる飛屋具ハりま
持糸いしゆしゆもゆしやあ
まうてゆあがゆあてハかあつて
そゆらつとちゆをくさゆしゆり
ふゆにかくゆあしとゆあハ

さゆしゆりゆしゆゆああり
よ仁王のゆあゆゆゆああり
それハゆゆゆゆゆゆゆゆ
年ゆゆあゆゆゆあて田畑ゆゆ
らゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

せしふ少次郎もはひふ志よくせざる
糸^そらんあがら今朝の酒のほろも
腹中^{あは}大ひよはるれはれははれは
己ひと太食^{たいじ}一田^い舌^しでけふるふ
こふ夜^やせんハ山^{やま}申^{まを}ふ宿^{しゆく}せーこと
る本^{ほん}はろくり一^い宿^{しゆく}もやでられは太^あ
ふ宿^{しゆく}むりとりよよ一^いむぢとま
らよ一^いてうちや一^いたるふれもは

酒^{さけ}の別^{わか}よわびなるふそのゆいぶ
てい^い由^ゆハうごんあどらうちて水次
一^いがりのせらるるをまちら^い居^いる
よ^よあ^あ一^いふ^ふ一^いて^てめ^めを^をま^まえ^え一^い時^{とき}と
ま^まく^くよ^よセ^セと^とま^まる^る一^いま^まづ^づあ^あり^りや
の^のま^まく^くと^とて^てう^うご^ごん^んが^が一^いあ^あり^りま^まひ
くら^{くら}な^な少^す次^じ一^い宿^{しゆく}悦^{よろこ}び^びの^のた^たく^くび^びさ^さそ^そく
あ^あ一^いぎ^ぎと^とら^ら因^{いん}縁^{えん}あ^あり^りと^とて^てい

しもの名をとりてハ又二席を差つとりて
持人を職とせしむるよし 善くならふ
山次二席ハ日のちてむくよれど
き一宿成るものなるは又二席を差つ
さらきくは順孝一とせられし事
く母てゆとり中たき、後がひあは
しとて 観ご終よしてゐる一その夜
ハ持人ハ二席を差つたかゝる事
しけり

仇討天貞東洋繪室記卷之八終

高田のり

りふ

たのりや

えきり

山もゆきみて

あしは
えん

仇討天貞東錦繪実記巻之六

目録

一

倉光山次郎山敵茂忠の事

并勘定印諸事

そのふごーらー大燭ふきり
廻國燭書一ツけ焚立らる八十次所
ハこれとらんそころまじりなまそ山取
りりて猪の肉を食ーころまじり
ーはくまきくあくハハのち
うーそふけぐれ多ーころまじり
穢退せむやとおのひーころまじり
おのひーころまじり平の御代
るれバこそ多獸のつごそと何まじり
一國國のときふいりてと獸ハれ
らうの事湯ふれよバ飢ふれよを
ハ血を吸ひ人の肉をも喰ふるまじり
ーあよそと地の何りよよせむら
お合せむらハ何りよよせむら
ハーあふちあつよあふち
ハ水亭ふらよまじり料理ー

くさくさふゆいのくさくさがあふりつて
いさあふいさあふれがまをまをこみせけん
かたよりふ家内うちうちのくさくさこれと平へい
生の食くはとく春はるふありてハヤとよ
ざうりぬぐぐのちん味あじこれと
あそふぬぐぐありとなをいれ
いれがまあま姉あねのらまをまろつぼよ
ぐりこまあまあまのあとおのま

山やま中の事ことなれがわ流ながきまとより
る——いさくやくさぬのいなり白しろたり
うそ新あらた目め付つ己おのれままくくまま姉あねが肌かわと
さくひたゆよふよととのいさく
ありがさき仕し合あありと林はやしるるえ
く——いさくあどよまやうくよくく
いさくといさくあどよまが
いさく——いさくあどよまが

かゝらぐりしにまへくハあな(と)と
さうしとてこまきもぬらびはけ
て又さくらんくもつら子山次郎と
れをふてさあ〜
このどらうなるあ〜
かゝら山(の)屋(を)れがこれ
平生の食(を)るふれんさまでよ〜
あ〜りたればてい〜由山次郎ふ

さらめつらと山次郎ハ先(の)うど
んりあり風(を)よ〜て大(の)食(を)
ま〜は舞(を)退(を)ひるあ〜
て路(を)りつらよあ〜
さ〜りげんと〜
流(を)き〜あ〜
うぞ〜ららあ〜
百(を)れ〜も山次郎があ〜

此夜よりの世活の多ドげあま
仕合ありまゝいひのさうひては目ふ
かくり此礼のぶごーとてそとくふ
支交しつらふてふも夫婦た
とりまがくゆありはあまのさ
と朝飯なりどおーとけんれい
しそぎの旅行あまは海志のふ
るー少ーの禮謝し海てん
あのみもきあうこの口端の音紙入
あまのさうれは海用を以ての
あまのさうて願巻よ海てーと
の金子あまは山歌し三十里
たうざうらちのりあまは人の印
いとぬごひー又席たあ夫婦
まらるふ夫婦しつ送りて
しーちのりんるいとあー

小次郎が粋意くく多まじりて
ともしくまことしよものりぐざれバ
大まよは難義よねよびたれバ
より大膽不敵の若よのあれバ
是よはそこしよもあせむはせま
ひハ古や一海あるどよは
一夜と何うしよまよくと二日
海をなめて山敷よあけれバ
少次郎

大まよよらうとびあのまが古々あれバ
めそや家家よいりりりり
髪浴浴あもい金まはまはら
うてうーあひーうごも
入まー少ーの金子とりあ
是とらあてあてと支度
その夜ハ山敷順の城下あ一宿
て明日ハ海く又舟を舟りもやん

やんつよりもちろむよくやして
夜明けよん多りあれば宿のてん
もよぶよせこれハ城内を念
書とよぶの次男よりけとび
象深一者んふつりーりどり
あり今日ハあろく立居まきまは
こーのまげとそりーとて
あると頼まはこーむらりの

まをそと用まー稼宿をあて家
とさーてめどりーりふふ父母と
先家内足寄のものまで中糸
りあそまきとゆんド一居ら妙よん
はよりあちをんて家内もの
大まよよふこび父母足寄かくと
多りあろふ母とこどり兄妹
多ちあて長途のつれなぐ果

今事とほりめ一るふふとくまき
そくさせしるて目限のあそび
こりーやとあづひとらふ山次第
も途申ふあゐて何しとくしめ目限
延引せしとくしりまはかこて
伊備せしとくしりまはかこて
おしゆせんものあそびくしび
のつうれとぎやとちりらるふあどそく
目くら夜ふべりらまバ父母と兄
内記妹やとちりらて山次第あそび
各よりあまは海の風をさそぐ
あふんまらまらしとちり
くらぬららふしとあもあせのそり
ゆしふまららるる系也と信ふあらるる
まらふ詩人新人も筆致をげら
とあうしりしはしと忘る

ふらび十二の象二百六の位の清く
るありくしつらありふはきくす
何とぞ父と上りもろやしくし
むしつんおふりあふり
しきくものガあり親子二人も
人ふ身とぞ入るりあふりふ
い象深して空統のやうきやう
父と兄弟ふきろせんちかくよりて

ちくろふ新事一布とさきくす
あきふしやふと少多ふあつて
うぞ父と書はきくして
が海りし長人を付けてこれと
形も平一して平年ものやう
らび何事しやんかひ
形推察ふらびはきく
びものごとれとやうなるふ

父の眼力ふれそれ平伏して是
らふふいづもれあせのさとり私
まはさういふ心くし
申してそらばも酒家のさのよ者
念あん義あよびんうくことば
さういふも
維新あよびんども私
そり合やさずいふあり

てきざんよれバ
つと西月とういふひわらど
かきそれと官書あおよびん
わつておほのり
私中ハ命よ
なよさるも
の事ありとことらり
よりりてわらる人回せん

一山(私事) そのあそり〜
り山(山)とつ〜
る〜
そ〜
い〜
せ〜
よ〜
ま〜

報(報)が〜
ん〜
の〜
法(法)を〜
と〜
夫(夫)死(死)を〜
死(死)〜
み(み)〜

ありともまき去ぞー 石田あざくの
こころこころ 肉あいき記あいきハ少次あいき席あいき一あいき 雁書あいきと
お徳あいきちあいきそりあいきー 肉あいき記あいきハ半あいき一あいき 持あいき系あいき
はるあいき金あいきーあいきとあいきつあいきてあいきのあいき年あいき之あいき肢あいきとあいきー
うあいきがあいき母あいきとあいきそあいきどあいきちあいき肉あいき記あいきハあいきであいき何あいきとあいきせん
うあいきこあいきろあいきああいきまあいきこあいき次あいき骨あいきヲあいきてあいき是あいきよあいきいあいきとあいきくと
ウあいき不あいき第あいきとあいき母あいきのあいきろあいきとあいきもあいき兄あいき肉あいき記あいき後あいきと
ああいきうあいきんであいき已あいきびあいきりあいきまあいきしあいきハあいき書あいきハあいき大あいききあいきふ

いあいきうあいきりあいき母あいきハあいきああいきんあいき子あいきをあいきれあいきばあいきぐあいきちあいきうあいきー
てあいきアあいきうあいきルあいきんあいきああいきまあいきこあいきもあいきゆあいきつあいきとあいきもあいきああいきれあいきど
もあいきああいきのあいきまあいき肉あいき記あいきハあいき少あいき次あいき席あいき一あいきはあいきああいきとあいきとあいきぬ
うあいきうあいきけあいきのあいきああいきまあいきああいきどあいきのあいき事あいきうあいきろあいきうあいき
うあいきんあいきはあいきうあいきろあいきぐあいきらあいきやあいきけあいきまあいきこあいきよあいきてあいきかあいきくあいきー
とあいきまあいきがあいきああいきろあいきうあいきハあいき依あいき所あいき後あいきはあいき井あいき底あいきあり
上あいきのあいき肉あいき記あいきハあいきもあいきれあいきよあいきびあいきるあいきがあいき肉あいきの
うあいきのあいき肉あいきとあいきかあいきろあいきああいきちあいきりあいき家あいき計あいき絶あいきへあいきよ

れよむん奉しとらうと書んて
おてうせあましとらうと書んて
一目のうちよ親子の情をよの
りから肉祀ハけ一云とゆよよりも
うやまー入ひありそりく出也
おとべー舟横少次帝を一時もた
や進おー左舟をるべー月形
年ありるバまうらうらんゆら

べーと云をみよのふーそりく
に少次帝御書の書れとふたを
り月形中へさーおーらうふ舟ハ
前後のこまきまへく只ぬーと
づむむらりそて一云のいへる者
まバ島書ハ一間の内みなるあかく
民船どのすけおのむき、番ぬり
ゆーはるこーあま家申

と何と云ふしてや—まゐるびる
くより一卵ハるありたりしは帝ハ
と親のかくは成や—たがと一平所
江戸ハまこ—西—とのよ—あは次
才又ハ古々—海—んと何—ま—成
そぬる卵ハけき—と海—らそそ
し—ま—人—江戸の方—ま—が
こよひハまづら改トのそ—ま—や—も

とり明るバ民於秋よりの一左右を待
うけおま—ま—と母のた—し—あ—ま—
がひを—ま—ばやあ—し—りつきせぬたのひ
そ—ま—
ハ—
文民於が—ま—
はげあ—ま—せけらふ民於ハ大—ま—たど
ろきるま—ま—い—ま—し—ま—師—が—旅—が
ま—ま—の—ま—ま—し—ま—師—が

宿をーしーるへびやーのへせむらう
りるふ小次帝ハ祖又方りの藤支
交取うけそり海用金さうそ後へ
の十ら妙あまきとよろそび一まづ江戸
へま城何とそ伯父服初ハ古妻のた
はてとものつてしひ入ま古名のやうは
次来しううともまの候やうんとと
佐るまー山取の城りとやうはさて

てり赤のまらぬ藤海はあのみさう
ハ長されありらる夏ごもあり終ら
妙又秋田順はれひてハまはらうは
ては端の夏順王酒井左衛門尉の
よりあさいんト村りらる如その海ら
場は懐中のおくり村とーり
らるが金さうとがーこれ何ら也断の
百姓左衛門尉のさーおーり

と多し〜うふまきとぞけれぬてまて
これ ころい 役人 佐木 どの 役
人より 小波 師 どの 事 きは 深き
口端のうへ ぬ傷よれよび 手願り
ものも されりる ざん 急度 何ん
とぞ けりる よる 名 どの 役人 より
返事 一 さら 八 苗 中 倉 光 景 書
次 男 同 苗 小 次 師 一 白 浪 人 まで

されりる 事 づゝ こと 承り ち ち ち
ちよ 付 同 苗 景 書 助 南 中 付 國 遠
し こと せゆ 付 師 どの 方 まで 一 向 か ま
ひ され ぬ 事 候 何 事 とも ね よ び こと
は こと 候 思 返 事 され ば 佐 所
どの 役 人 とも ち ち ち ち ち ち ち
事 あり 右 の だ ん 役 人 とも ち ち ち
べ〜と 秋 田 まで 一 一 一 一 一 一 一

まことありし づしよ 書か せん 身 の 意 り ら
り け 一 る 心 は られ と かん ど あり と
その こ 心 を な り せ し け り

俳討天貞在綿繪字記卷之六終

六

